

最近日本各地で発生したデング熱は、小さな昆虫の動向が社会に大きな動揺をもたらすことを示した。この間、デング熱の病態や治療についてはマスコミ等で多く報道されてきたが、媒介昆虫である蚊の分類学、および分類学に必要な自然史標本について、いまだに社会の理解が浅いことが判明した。媒介昆虫の分類と同定を誤れば社会に多大な影響を与えかねない。そこで、自然史標本の公的位置づけについて議論を続けている日本学術会議「自然史財の保護と活用分科会」が中心となり、分類学と自然史標本が昆虫媒介感染症に果たす意義を社会に知らしめることを目的とする。



2014年
12月15日(月)
13:00~17:00

日本学術会議講堂

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

参加無料

事前申し込みは必要ありません。お気軽にご参加ください。

緊急公開シンポジウム デング熱と 蚊の分類と 自然史標本



主 催：日本学術会議 自然史財の保護と活用分科会、動物科学分科会、
自然史・古生物分科会

共 催：日本分類学会連合

後 援：アース製薬株式会社

- 13:00 趣旨説明 岸本健雄 (日本学術会議会員、お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター客員教授、東京工業大学名誉教授)
- 13:20 デング熱流行と日本の蚊 栗原 毅 (帝京大学医学部名誉教授)
- 13:50 アジアのデング熱媒介蚊の分類 比嘉由紀子 (長崎大学熱帯医学研究所助教)
- 14:20 デング熱を媒介するネッタイシマカ2亜種の起源と進化 二見恭子 (長崎大学熱帯医学研究所助教)
- 14:50 休憩
- 15:00 熱帯域における病原媒介性昆虫研究の現状 皆川 昇 (長崎大学熱帯医学研究所教授)
- 15:30 分類学と標本—蚊だけじゃない! 博物館の役割 大原昌宏 (北海道大学総合博物館教授)
- 16:30 パネルディスカッション 司会: 馬渡駿介 (日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)